

各教育事務所の調査結果

球磨教育事務所

- 1 教科に関する調査の結果
 - (1) 教科に関する調査の結果概要
 - (2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校、中学校）
- 2 質問紙調査の結果
 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果
 - (2) 学校に対する調査の主な結果
 - (3) 質問紙調査に関する成果と課題
- 3 今後の重点取組

1－（1）教科に関する調査の結果概要

本管内の概要

- ・小学校では、国語は全国平均を上回っており、算数は全国平均を下回っている。
- ・中学校では、国語、数学ともに、全国平均を下回っている。

	【小学校6年生】	
	国語	算数
管内	65%	69%
県	66%	70%
全国	64.7%	70.2%

	【中学校3年生】	
	国語	数学
管内	62%	55%
県	64%	55%
全国	64.6%	57.2%

※表中の数値は平均正答率（％）、県の値は国から整数値で公表

1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校）

成 果

国語 成果が見られた内容

- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること【問題番号 3二】
- 文の中における主語と述語との関係を捉えること【問題番号 3三(2)イ】
- 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えること【問題番号 3三(2)オ】

算数 成果が見られた内容

- 三角形の面積の求め方について理解していること【問題番号 2(1)】
- 商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすること【問題番号 4(2)】

課 題

国語 課題が見られた内容

- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること【問題番号 2一】
- 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと【問題番号 2二】
- 資料を用いた目的を理解すること【問題番号 1二】

算数 課題が見られた内容

- データを二次元の表に分類整理すること【問題番号 3(3)】
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できること【問題番号 2(3)】

1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（中学校）

成 果

国語 成果が見られた内容

- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと【問題番号 3四】
- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること【問題番号 2二】

数学 成果が見られた内容

- 整式の加法と減法の計算ができること【問題番号 1】
- ヒストグラムからある階級の度数を読み取ること【問題番号 8(1)】

課 題

国語 課題が見られた内容

- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること【問題番号 3二】
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること【問題番号 3三】
- 文脈の中における語句の意味を理解すること【問題番号 3一】

数学 課題が見られた内容

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること【問題番号 6(2)】
- 錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解していること【問題番号 9(2)】
- 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明すること【問題番号 9(1)】

2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
慣 基 等 本 的 生 活 習	朝食を毎日食べていますか	96.0	95.1	94.9	92.4	94.2	92.8
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	79.8	91.3	90.4	82.6	93.3	92.7
	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか（「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」の割合）	25.4	28.3	29.0	18.1	25.2	32.3
規 挑 範 戦 意 心 識、 達 自 己 成 有 用 感 等 感	自分には、よいところがあると思いますか	73.0	76.1	76.9	73.3	74.4	76.2
	将来の夢や目標をもっていますか	83.8	80.3	80.3	75.7	69.5	68.6
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.9	96.6	96.8	99.0	96.8	95.9
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.4	95.5	95.5	97.1	95.9	95.0
	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.0	87.3	83.4	88.8	85.3	81.1
	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	63.6	69.5	70.3	76.0	74.7	75.2
学 習 習 慣 等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます。）	75.2	73.0	74.0	60.6	61.2	63.5
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。）（小学校は「30分以上」、中学校は「1時間以上」の割合）	89.8	88.1	87.0	69.6	72.2	75.9
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）（「2時間以上」+「1時間以上、2時間より少ない」+「30分以上、1時間より少ない」+「10分以上、30分より少ない」の割合）	60.0	60.5	61.2	42.4	45.8	50.1

※質問項目の中から抽出

2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
社会 地域 や	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.7	61.0	58.1	52.1	43.3	43.7
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	56.2	53.4	52.4	51.9	44.0	43.8
の I C T 機 器 の 活 用	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか（「ほぼ毎日」+「週1回以上」の割合）	40.6	56.6	39.0	20.8	51.2	34.8
	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.4	95.4	94.5	98.0	94.8	93.2
か ら の 授 業 改 善 主 体 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び の 視 点	学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	80.1	80.1	82.6	82.3	80.4	83.7
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	56.9	57.7	63.5	53.3	52.2	62.0
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	74.0	77.2	78.2	78.2	77.8	81.0
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	74.0	76.7	78.8	75.9	76.1	77.8
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.4	78.3	78.3	72.4	73.0	74.6
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか	78.0	73.2	73.0	75.1	69.8	70.2
響 ル 新 型 コ ロ ナ ウ イ の 影 響	多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	49.4	50.6	55.2	62.4	57.9	62.8
	多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	67.1	66.3	64.6	39.1	36.8	37.6
	多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	61.8	63.7	63.1	52.5	49.4	48.4

※質問項目の中から抽出

2 - (2) 学校に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
生徒指導	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	92.6	90.7	88.5	100	91.0	96.0
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	100	99.4	98.7	100	99.4	98.6
学校運営、教員の資質 向上に関する状況	校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	85.2	82.3	73.9	66.7	62.8	55.5
	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	96.3	94.9	94.4	91.7	90.4	90.6
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	96.7	93.6	91.7	92.2	92.7
	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100	98.8	98.5	100	98.2	97.2
主体的・対話的で深い学び に関する状況	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	92.6	88.0	85.3	100	83.3	86.0
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	55.6	62.3	68.3	83.3	73.7	75.6
	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っていますか	66.7	74.4	75.8	91.7	78.5	83.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100	91.0	88.1	100	91.7	86.9
家庭学習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	100	90.9	90.6	91.7	89.8	85.5
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）	96.3	96.1	95.5	100	95.8	91.9

※質問項目の中から抽出

2 - (2) 学校に対する調査の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
ICT	コンピューターなどのICT機器を活用した取組を教職員と児童〔生徒〕がやり取りする場面ではどの程度行っていますか。（「よく活用している」+「どちらかといえば活用している」の割合）	59.3	68.7	44.7	58.3	59.9	41.5
	コンピューターなどのICT機器を活用した取組を児童〔生徒〕同士がやり取りする場面ではどの程度行っていますか。（「よく活用している」+「どちらかといえば活用している」の割合）	48.1	50.6	30.1	50.0	39.5	25.8
小中連携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	85.2	65.7	59.1	75.0	76.6	65.0
	平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	59.3	52.7	48.1	50.0	57.5	48.5
中等の全学調 の結果 活用	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100	98.8	88.7	100	94.6	85.8
新型コロナウイルス 感染症の 影響	学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか（「全校で実施」+「一部の学年・学級で実施」の割合）						
	・教科書に基づく学習内容の提示	100	98.1	93.4	100	99.4	92.5
	・学校が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）	100	96.9	95.7	83.3	96.4	95.3
	・教科書会社やその他民間が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）	100	90.4	85.8	83.3	77.8	69.6
	・児童生徒の自由研究や自主学習ノート等の学習	92.6	91.6	85.0	91.7	81.4	74.1
	・学校が作成した学習動画等を活用した学習	18.5	33.1	23.2	25.0	33.6	26.7
	・同時双方向型オンライン指導を通じた学習	11.1	29.2	5.7	16.7	22.8	7.4

※質問項目の中から抽出

2 – (3) 質問紙調査に関する成果と課題

【児童生徒に対する調査から】

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」など、地域や社会に関する質問項目に対しては、小・中学校ともに国・県と比べて高い。地域に根付き、地域と連携した教育が進められていることが考えられる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問項目については、国・県よりも小・中学校どちらも**肯定的に回答した割合が高い**傾向にある。ICT等を活用した学びの保障に向けた取組の成果であると考えられる。
- ▲主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する質問項目では、小・中学校ともに国・県と比べて低い傾向にある。子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善が進んでいないことが考えられる。
- ▲「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という基本的な生活習慣に関する質問項目に課題が見られる。家庭と連携した生活習慣の改善を図る必要がある。
- ▲「自分には、よいところがあると思いますか」という自己有用感に関する質問項目にも課題が見られる。自尊感情及び自己有用感を高めていく**取組が必要**である。

2 - (3) 質問紙調査に関する成果と課題

【学校に対する調査から】

- 生徒指導、家庭学習、全学調の結果等の活用に関する質問項目については小・中学校ともに国・県と比べて高い。学校運営、教員の資質向上に関する状況についても高い傾向にあり、校長のリーダーシップのもと、各学校の「学校化」が進んでいる成果であると考えられる。
- ▲主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する質問項目では、小・中学校ともに国・県と比べて高い傾向にある。児童生徒質問紙の結果とは乖離しており、主体的・対話的で深い学びに導く授業改善を進めていく必要がある。
- ▲小中連携に関する質問項目において、小学校と中学校との意識の差が大きい。連携を密にとり、共通認識のもと、お互いの活性化につなげていく必要がある。

3 今後の重点取組

「球磨教育事務所における学力向上を目指した『4つのポイント』の推進」

○ポイント1：学力向上（基礎学力の保障）へつながる「共通実践事項」の徹底

- ・ 単元終了時の子供の姿を目指し、各授業における「共通実践事項」の徹底の必要性について指導を行っていく。
- ・ 学校訪問及び指導主事活用等においては、授業チェックシートを活用して指導を行うとともに、各学校にも活用を促し、共通実践の徹底を図っていく。
- ・ 導入においては、本時に向かう意欲を高めるとともに、本時に必要なレディネスを整えるよう指導していく。
- ・ 読解力を高めるためには、問われていることを確実に把握させること、教科書の活用、ノート指導、ワークシートの在り方及び単元内における定着状況の把握と補充学習等について、学校総体で共通実践を行うよう指導する。

○ポイント2：授業づくりにおける「『振り返り』活動」の充実

- ・ 具体的な単元終了時の子供の姿から、本時のゴールの姿を児童生徒と共有し、そのことについて自己の学びの振り返りを行わせる。
- ・ 次時に向けて、児童生徒に本時の学びを基に何に取り組むべきかを考えさせるとともに、教師は本時の学習状況を把握し、次時の指導に生かすようにする。
- ・ 振り返りを毎時間行わせることで、児童生徒の振り返りの視点の改善及び質の向上を図るよう指導を行っていく。

3 今後の重点取組

「球磨教育事務所における学力向上を目指した『4つのポイント』の推進」

○ポイント3：「個に応じた家庭学習」の充実

- ・本時の「振り返り」をもとに、家庭学習における「何を」「どのように」行うかについて、考えさせたり、指導したりするなど、個に応じた家庭学習の充実が図られるよう指導を行っていく。
- ・単元終了時の児童生徒の姿に向けて、家庭学習の内容が次時の導入に生かされるよう指導を行う。
- ・「個に応じた家庭学習」について、保護者に理解を促すとともに、保護者とともに取り組み家庭学習や保護者のチェックについて工夫を行うよう指導を行う。
- ・家庭学習方法について、教師の見取りを確実にいき、児童生徒の効果的な家庭学習の在り方について継続的・組織的に取り組むよう指導を行っていく。

○ポイント4：支持的風土のある「学級づくり」

- ・人権教育の視点から、一人一人を大切に、児童生徒が安心して発言できる雰囲気づくりについて指導を行っていく。
- ・授業における児童生徒の「あるべき姿」を教師と児童生徒が共有し、児童生徒自ら、協働して学習に取り組む雰囲気を醸成するよう指導を行う。また、学級集団の状況をチェックする「Q-U」及び「hyper-QU」等を各学校、各市町村教育委員会に紹介し、学級づくりに生かしていくよう働きかけていく。

3 今後の重点取組

「球磨教育事務所における学力向上を目指した『4つのポイント』の推進」

○その他

- ・ 小学校低学年時の下位層は、小学校高学年時及び中学校においても改善されにくい状況を踏まえ、小学校低学年時から継続して補充学習を重ねながら、確実な学力の定着が図られるよう取り組ませる。
- ・ 日常的に他の教員の授業を部分的に参観する等、授業を参観しやすい校内の体制を整える等して、研修の充実を図るよう促していく。
- ・ 学習へ向かう雰囲気醸成するための掲示教育についても、今後も学校訪問等を通して継続して指導を行っていく。
- ・ 学校支援訪問においては、課題校に対し継続的・連続的に指導を行うとともに、中学校区においては、校区内小学校にも支援を行っていく。
- ・ 教員の指導力及び授業力向上のために、指導教諭の活用を促していく。